

議会 だより

令和7年10月 169号



長野県 松川町

特集

①関係人口づくりの
先にあるもの ▶▶ P2

②どうする下水道！
人口減少時代の重要インフラ ▶▶ P8

決算認定！9月定例会 ▶▶ P4

6人が問う一般質問 ▶▶ P12

人と人がつながるおもしろさ ～松川町の新たな地域のつくり方～



関係人口創出事業「マツカワ×シナガワたがやす塾」生東地区（長峰）での交流イベント

松川町議会の様子は
YouTube「松川町議会チャンネル」
でご覧いただけます



関係人口づくりの先にあるもの

近年、「関係人口」という言葉が広がりつつあります。観光で訪れる人を「交流人口」、町に住む人を「定住人口」と呼ぶのに対し、その中間に位置するのが「関係人口」です。具体的には、松川町に住んではないけれど、町に関心を寄せ、何らかの形で町と関わってくれる人たちを指します。

例えば、季節ごとに果物狩りに訪れる家族、町出身で都会に住みながらも地元の活動を応援する人、地域のボランティアに参加する人、ふるさと納税を通じて支援してくれる人など、多様な姿があります。

なぜ関係人口を増やすのか？

少子高齢化が進み、全国的に人口減少が続く中で、松川町も例外ではありません。住民が減れば税収も減り、地域の担い手も少なくなっていくます。一方で、町の魅力や資源は外からの目によって新たに発見されることがあります。関係人口は、単なる観光客よりも深く町に関わることで、松川町にとっての「応援団」となり、地域の活力を支える存在となるのです。

関係人口が増えることにはいくつかの意味があります。まず第一に、町の魅力を広げる力です。松川町の自然や農産物、暮らしの文化は、住んでいる私たちにとって当たり前のものですが、外から訪れる人にとっては新鮮で貴重な体験となります。その発信がさらに多くの人の関心を引き込み、地域の知名度やブランド力を高めます。

第二に、新しい担い手の可能性です。農業体験やイベントに関わった人が「もっと深く町に関わりたい」と思えば、将来の移住や二地域居住につながります。加えて、地元にはない知識や技術を持つ人との協働は、新しい産業やサービスを生むきっかけにもなります。

第三に、住民の誇りや喜びが育まれる点です。自分たちが暮らす町に共感し、外から町

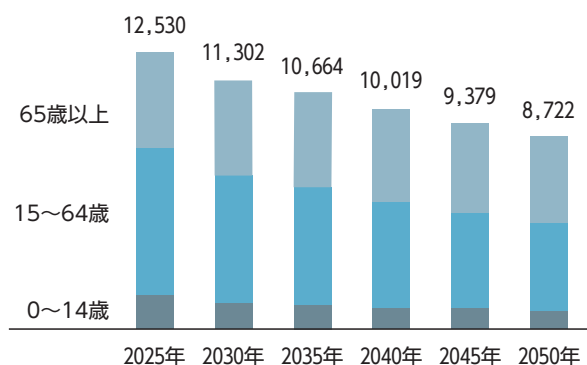
を応援してくれる人がいることは、大きな励みになります。町の魅力を再認識することで地域のつながりや自治意識を高める効果もあります。

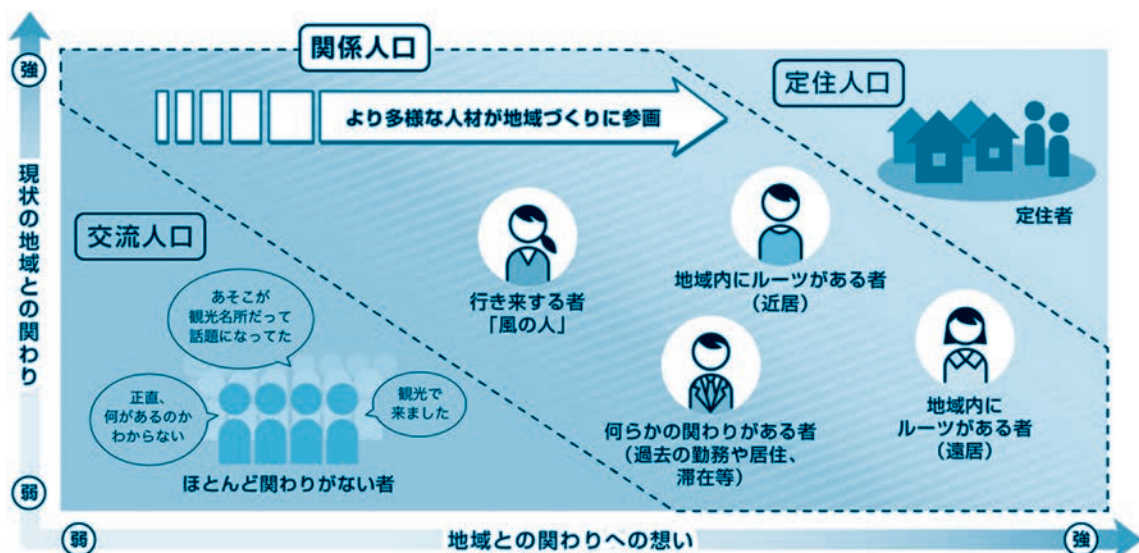
町の課題と取り組み

松川町では、進学や就職をきっかけに若者が都市部へ移り住み、そのまま戻らないケースが増えています。町内には進学先や就業先、若い世代が楽しめる場が限られており、地域だけで解決するのは簡単ではありません。

そこで町は、関係人口を地域課題解決の担い手と位置づけ、さまざまな施策を展開しています。たとえば、都市部の若者がSNS発信やイベント企画を通じて松川町の魅力を外へ伝える南信州クリエイティブコミュニティや、東京・品川の若者が稲刈りや祭りの手伝いを通じて松川の暮らしを学ぶ「マツカワ×シナガワたがやす塾」。さらに、空き家となっている旧官舎を活用した都市間交流拠点の整備計画も進行中で、移住体験住宅や交流施設として町外からの関わりを深める拠点となる予定です。

松川町の人口推移予測





出典：総務省ウェブサイトより

松川町の取り組み例

①南信州クリエイティブコミュニティ



松川町と株式会社SAGOJOが連携して立ち上げた地域づくりと関係人口創出のためのコミュニティ事業。全国から募集され、町に関わる活動に積極的に取り組む人たちが、これまでに関東・関西から20～30代の若者が中心に参加しています。

②マツカワ×シナガワ たがやす塾



品川区の「株式会社宿場JAPAN」と「マツカワたがやすかいぎ(任意団体)」と松川町が共同で運営する交流プロジェクト。観光客の立場ではなく「地域の一員」として農作業や森林整備、祭りの手伝いなどに関わることが特徴です。

③都市間交流拠点の整備



国や県の財源を活用し国土交通省の旧宿舎を、移住体験や関係人口の活動拠点にする施設整備計画が進められています。現在は11棟中5棟が活用されていますが、空き家となっている6棟を含めた一帯の改修が予定されています。

町を次世代につなぐために

これらの取り組みは、外部人材のアイデアを取り込み地域に刺激を与える一方で、成功の鍵は訪問者を迎えるコーディネーターや、住民の温かい受け入れ体制にあり、私たちは事業の長期目標を明確にし、成果を町民にわかりやすく示すことが大切だと考えます。

行政任せにせず、政策提案を重ね、町民の皆さんと共に外からの力を生かす環境を整えていく必要があります。

関係人口づくりは単なる人集めではなく、町の未来を共に育む仲間づくりです。人口の多い、少ないに左右されない地域社会を築くため、松川町を愛し応援してくれる人が一人でも増えること。その積み重ねこそが、私たちの誇れる町を次世代へつなぐ大きな力になるのではないのでしょうか。

令和6年度決算を認定 ～収入総額は過去最高額！～

本会議では、一般・特別・公営企業会計の決算が認定された。使用料を20%引き上げる下水道条例改正案は修正案・原案ともに否決された(7ページ参照)。一方、令和7年度一般会計補正予算(第3回の専決承認、第4回)・特別会計・公営企業会計の補正予算は可決された。

【一般会計】		【特別会計】	
歳入	85億3,053万円(6.6%増)	歳入	30億4,142万円
歳出	82億4,667万円(3.8%増)	歳出	29億908万円
実質収支	2億5,693万円(19.1%減)	国民健康保険事業、介護保険事業 後期高齢者医療、発電事業	
		【公営企業会計】	
		収入	12億3,474万円
		支出	12億4,795万円
		水道事業、下水道事業 信州まつかわ温泉清流苑事業	

※実質収支とは、歳入から歳出を差し引き、次年度に用途が決まっている額を除いた収支額。

監査委員はこう見る



大島英嗣
代表監査委員

令和6年度の松川町決算は、一般会計において黒字を維持し、町債残高も減少するなど、財政の健全性は概ね保たれている。一方で、実質収支比率の低下や人件費比率の高止まり、一般会計・特別会計の収入未済額の増加など、財政構造上の課題も見受けられた。

水道事業はインボイス制度対応に伴う費用増などにより赤字決算となり、下水道事業は一般会計からの繰入金に依存する体質が続いている。清流苑は改修を終えたことで、今後は収益確保に向けた取り組みが求められる。

また、未使用財産の活用方針の明確化や、人口減少を見据えた職員定員管理計画の策定が急務であり、町民サービスの質を維持しつつ、限られた財源を有効に活用し持続可能な行政運営を図る姿勢が求められる。

「決算認定」とは

決算は、松川町に入ったお金(収入)や使ったお金(支出)の実績です。

決算認定とは、議会が一年間の決算内容を確認し、確定することです。

使われ方は適正か、計算は正しいか、法律に適合しているかなどを審査するだけではなく、過去の財政状況と比べて問題点を指摘し、将来に反映させるなど、大切な役割が議会にはあります。

税金の使い方を決めるのが予算審議ですが、決算の審査は使われた結果を検討し、今後の予算編成や行財政運営の改善に役立てる大切な意義があります。



令和6年度「決算認定」までの流れ

令和7年3月31日 会計年度(令和6年度)終了

この間、令和6年度の事業の金銭を清算

令和7年5月31日 出納を閉鎖

- ・会計管理者が決算を町長に提出
- ・監査委員が決算を審査し、町長に意見書を提出

令和7年9月 9月定例会

町長 監査委員の意見書を添えて議会に決算の認定を求める

議会 決算が適正か審査する

→ 適正であることを確認し、認定する

英語教育の推進

問 ALT(外国語指導助手) 2人を採用した成果は。
答 十分な手ごたえを感じている。特に保育園や小学校1・2年生向けに英語遊びを導入したことは、子どもたちの可能性を引き出すことにつながっている。



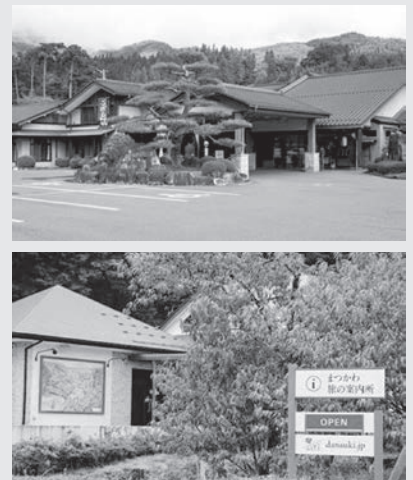
地域医療の取り組み

問 下伊那赤十字病院への補助金1億2千万円の使途は。
答 番号呼び出しシステム導入や医師雇用を活用され、地域医療の充実につながっている。なお、補助金の8割は特別交付税で措置される。



公的企業と町の関係

問 一般会計から清流苑、まつかわ観光まちづくりセンターへの繰入の必要性は。
答 妥当と考えている。企業として経済的な自立を目指す、予算、補正予算も十分協議し決定している。



仕事づくり

問 子育て世代の仕事づくり事業の成果は。
答 町の事務作業(封入業務、SNS発信など)や民間企業の業務とマッチングをしている。現在2年目を迎え、仕事の件数や認知度が向上しており、民間企業からの依頼も増えている。



部活動休日移行

問 中学校の部活動休日移行の進捗状況は。
答 松川CLUBとして13の活動が立ち上がっている。既存の活動をそのまま移行するのは指導者確保の面で難しい。吹奏楽など文化系や活動場所が限られるクラブで課題がある。



生涯学習事業

問 公民館における各種企画はどの様に進めているのか。
答 行政が一方向的に指示するものではなく、地域の自主性を尊重して運営している。内容も住民の意見を聞きながら決めている。



ピックアップ!

一般会計補正予算(第4回)は総額4億 財政調整基金積立(2億5,585万円)福与前河原土地改良

デジタル住民票の発行

350万円

財源▶国庫補助金ほか

NFT(証明技術)を活用した住民票を発行・販売し、イベント参加権や特産物の返礼を通じて町外や海外の人々と継続的な関係を構築する。

問 現在の関係人口数と本事業の目的は。

答 既存の事業に関わる方は約30人。もっとスピーディに関係人口を増やす取り組みとして位置づけている。



地域に関わる人材との出会いに期待

ふるさと納税独自サイト新設

223万円

財源▶一般財源

ふるさと応援寄付金のさらなる受け入れのために、町が独自に運営する「ふるさと納税サイト」を新設する。

問 独自受付サイトの利点は何か。

答 ポータルサイトへの手数料を削減したり、利用者に寄付目的を明確に示すことができる。また関係人口の増加や移住定住につなげたい。



独自サイトの課題は知名度や集客力

新型コロナワクチン接種事業

382万円

財源▶一般財源

予防接種に係る費用の約半分の補助する。個人負担は一人当たり8,000円となる。

問 事業費の算定根拠は。補助することで副作用などの責任を負うことはないか。

答 昨年度の接種者は1,004人で、今年度は国からの補助金がなく自己負担が約8,000円になるため500人で算定した。また、副作用などの責任は国にあり、国の補償制度で対応していく。



接種費用の半額が補助される

GX推進事業

430万円

財源▶一般財源

ゼロカーボンシティ宣言の実現に向けて政策立案業務を外注する。

問 外注のプロジェクトマネージャーや地域活性化起業人はどのような人材か。

答 変化の多い補助金制度に対応するため、前者は地球温暖化対策計画に関わったコンサルタントを、後者は資源利用に詳しい人を想定している。



2050年までに排出量ゼロを目標にした宣言

※GX: Green Transformationの略で、環境に配慮しながらエネルギーや産業を転換していく取組のこと。

8,788万円の増額

(6,430万円) 道路橋梁維持(1,500万円) 都市間交流拠点整備(1,426万円) など

農地耕作条件改善事業

3,200万円

財源 ▶ 県支出金1,601万円
町債600万円ほか

農業用排水路の整備と周辺受益地の集積を図る。8年度事業を前倒しして着手する。

問 補助金はどの程度見込めるか。

答 申請額の満額は難しいが、県の予算に余りが出ることも多く、それを見込んで準備し要望している。



上大島の実施予定地

2028国スポ推進事業

652万円

財源 ▶ 一般財源

第82回国民スポーツ大会を契機に、松川町を拠点とした女子ラグビーチーム設立を進め、スポーツを起点に地域力の創出や若者・女性の定住促進を目指す。

問 スタッフやアドバイザーは町が全員雇うのか。どんな人材を呼ぶのか。

答 全員を雇用するわけではなく、練習時のみ関わる人もいる。人材は全国から募集し、コーチやマネージャーなど外部人材を活用して町の活性化につなげる。



清流苑(まつかわの里)での練習風景

下水道使用料改定案を巡る議論

1. 改定案の概要

町は、使用料を20%引き上げる案を提出(施行期日:令和8年1月1日)。背景には、使用開始から一度も値上げがなく、料金が低水準であること、人口減少による収入減少、設備老朽化による支出経費の増加、一般会計からの繰入依存(約1億3000万円)、交付税への影響などが挙げられた。

2. 議員からの主な意見

【賛成意見】

- ・ 応益負担の原則に基づき利用者が負担すべき。
- ・ 他事業に財源を割り当てられる。
- ・ 先送りは将来世代への負担となる。

【慎重・反対意見】

- ・ 20%は町民負担が大きい。
- ・ 段階的に改定や支援策も必要では。
- ・ 将来の財政健全化に向けた長期計画が不足。

3. 採決結果

- ・ 総務産業建設常任委員会で「原案(20%引き上げ)」が賛成2、反対4で否決。
- ・ 最終日の本会議で議員からの「修正案(10%引き上げ)」が賛成5、反対8で否決。
- ・ 最終的に「原案(20%引き上げ)」が賛成5、反対8で否決。

4. まとめ

原案、修正案ともに否決されたが、下水道事業の財政健全化や繰入依存の是正、将来世代への負担軽減については引き続き検討が求められている。

特集②

人口減少時代の重要インフラ考える

どうする下水道！ 老朽化と迫る耐用年数！

見えにくい重要インフラを知ろう！

私たちの毎日の生活に欠かせない水道と下水道。特に下水道はその存在が目立たず、代表的な見えにくいインフラのひとつです。

私たちの下水道は松川町によって運営されています。つまり税金で維持されている公営事業なのですが、その実態をみなさまはご存じでしょうか。

年初に起きた埼玉県八潮市の下水道陥没事故とその被害の甚大さ、長期化は記憶に新しいと思います。



R7.1.28

埼玉県八潮市の下水道陥没事故

出典元：埼玉県HP下水道局説明会資料より

インフラは巨額の維持費が必要です。しかも時間の経過とともに老朽化していきます。その様子が「見えにくい」からこそ、いざ事故が起きた場合は深刻な事態となります。下水道は私たちの重要なインフラです。しかし地中に埋まっておりその姿を意識することが困難です。この機会に住民として納税者として下水道を学んでみませんか。

178億円！下水をつくるのにかかった金額

私たちの町の下水道は、おおむね中央自動車道より東側、天竜川より西側を網羅しています（天竜川東岸の福与地区もカバーしています）。

その他の地区は「合併処理浄化槽」を使っています。これは土地家屋所有者自身が、自分の敷地に汚水を処理する設備を埋設し、管理も自らの負担で行うものです。

町民の使用割合

下水道（農集排を含む）	77%
合併処理浄化槽	13%
その他（汲み取りなど）	10%

住民の77%が使う下水道は、下水管と処理場が主な設備です。処理場は町内に6か所あります。下水管は町内全部で138kmもあります。これは松川ICから長野ICまでの距離に匹敵します。

私たちの町に下水道が整備されたのは1992年（H4）から2004年（H16）にかけてでした。下水管に129億円、処理場に49億円、合計178億円を投じました。2000年（H12）の町の予算は65億円ですから約3年分にあたる超巨額投資でした。

その後も現在に至るまでさまざまな改良工事などで億単位の追加投資を行っています。

どうする!? 178億円!

下水道整備にかかった巨費はどうやって集めたのでしょうか。実はそのほとんどが金融機関からの借金でした。この借金は毎年4～5億円のペースで今も返済しています。町の正規職員の人件費は年約6億円ですので、下水道の借金返済年額もいかに巨額なのかがわかります。

毎年人件費に匹敵する額を金融機関に返済していたら、とても町の家計は維持できません。全国的にも大多数の市町村が同じ事情を抱えています。

そこで国は、集めた国税を地方に分配して助けてくれます。松川町の場合は4分の3くらい(借金したときの条件や事業内容で変わります)を国が出してくれます。

よって、町が実質的に自力で返済するのは36億円くらいになります。



前河原の公共下水浄化センター

では、実質的なやりくりは?

下水道の家計は、結局のところどのようになっているのでしょうか。2024年(R6)の実績では、経常的な運用と保守や点検などにかかる費用が1.3億円です。借金の返済などは5.5億円ですが、実質的には4分の1ですので1.4億円です。よって実質の合計は2.7億円の支出です。

一方収入は、住民の使用料や加入料を集めた金額が1.8億円ですから、0.9億円の赤字です。この赤字分は町が負担するしかありません。

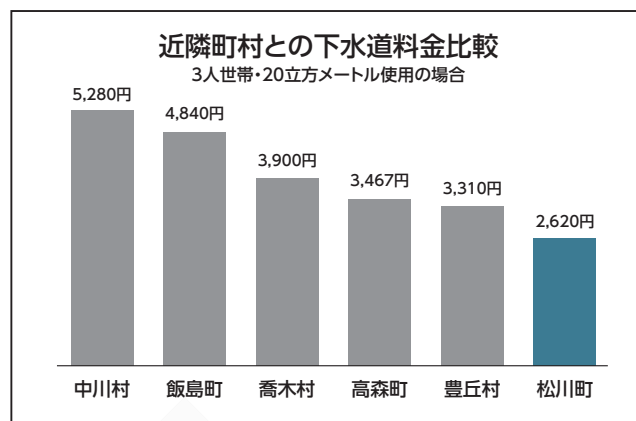


今後に必要なお金は誰が払うの?

下水道の設備も未来永劫に機能するわけではありません。標準的な耐用年数は下水管50年、処理場15～20年です。そろそろ耐用年数に迫り、改修工事や入れ替え工事が必要になってきます。

約30年前、町の人口はまだまだ成長すると信じ、巨費を投じて下水道という大規模なインフラを整えました。しかしその返済は数十年間の未来の住民が負担するのです。

そして今も、下水道の老朽化はじわじわと私たちに襲いかかります。下水管の入れ替えや、処理場の改修工事にかかる費用は、同じように未来の子ども・孫世代が負担するのでしょうか。人口減少が深刻な現代社会において、その皮算用は果たして通用するのでしょうか。今を生きる私たち世代が真剣に考えてみませんか。



一目でわかる審議結果

9月定例会

○賛否が分かれた議案

議案など	議員名	柳原 猛	小川 隼人	谷川 博昭	松下 正敏	紫芝 光雄	宮下 明	塩沢 貴浩	星野 光洋	米山 義盛	加賀 田亮	米山 郁子	坂本 勇治	米山 俊孝	松井 悦子	結果
●松川町下水道条例の一部を改正する条例に対する修正案(議案第2号関係)		×	×	×	×	○	○	×	×	○	×	○	×	—	○	否決 (賛成5人)
●松川町下水道条例の一部を改正する条例の制定について(議案第2号)		×	×	×	○	×	×	○	○	×	○	×	○	—	×	否決 (賛成5人)
●松川町一般会計補正予算(第4回)について		○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	—	○	可決 (賛成12人)
●松川町信州まつかわ温泉清流苑事業会計補正予算(第1回)について		○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	—	○	可決 (賛成12人)

(○は賛成、×は反対、議長は採決には加わりません)

○全会一致で可決・認定・同意となった議案

令和6年度決算認定	
●松川町一般会計歳入歳出決算認定について	●松川町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
●松川町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について	●松川町介護保険事業特別会計歳入歳出決算認定について
●松川町発電事業特別会計歳入歳出決算認定について	●松川町水道事業会計歳入歳出決算認定について
●松川町下水道事業会計歳入歳出決算認定について	●松川町信州まつかわ温泉清流苑事業会計歳入歳出決算認定について
令和7年度補正予算	
●松川町国民健康保険事業特別会計補正予算(第2回)について	●松川町後期高齢者医療特別会計補正予算(第1回)について
●松川町介護保険事業特別会計補正予算(第1回)について	●松川町水道事業会計補正予算(第1回)について
●松川町下水道事業会計補正予算(第2回)について	
条例の制定・一部改正	
●松川町公告式条例の一部を改正する条例の制定について	●松川町水道条例の一部を改正する条例の制定について
●松川町下水道条例の一部を改正する条例の制定について(議案第21号)	
任命	
●松川町教育委員会教育長の任命について	●松川町教育委員会委員の任命について

ギカイのうごき



議会は定例会以外にも様々な活動をしています。
最近の主な活動を紹介します。



「議会カフェ」を初開催

7月5日(土)6日(日)の2日間、初めての試みとして「議会カフェ」をえみりあ2階ホール前のスペースで開催しました。これまで「議会と語る会」などを通じて住民の皆さんと対話の機会をつくってきましたが、もっと気軽に、幅広い方々とお話してみたいという思いから企画したものです。当日は午後2回ずつ、計4回開催し、担当の議員と参加者の皆さんが車座になって、町政や議会について普段感じていること、町をもっと良くするためのアイデアなどを、おしゃべりするように意見交換を行いました。こうした対話の場はとても新鮮で、特に若い世代の方が参加してくださったことは大変うれしい出来事でした。アンケートでは「今後は場所や時間を変えながら複数回開催してほしい」、「世代を超えて深く話せたことが新鮮だった」といった声をいただきました。これらのご意見を参考に、今後の開催につなげていく予定です。



「攻める自治体」研修会を開催

8月5日(火)長野県立大学グローバルマネジメント学部准教授である中村稔彦先生をお招きし、町の職員も参加するなか研修会を開催しました。先生は地方財政論、公共政策が専門分野で、全国の自治体の運営に大変お詳しい方です。この日はご自身の本でも取り上げている北海道の東川町という「攻めた運営」を実践してきた自治体が、どのような事業に取り組み、どのように工夫を重ね、移住者を増やして人口増加へとつなげてきたのか、その刺激的な事例をご紹介いただきました。



牧之原市長、市議会が来町

8月21日(木)友好姉妹都市の牧之原市から市長をはじめ、議会議員のみなさまが来町されました。懇談会では牧之原議会から提案された「議会への住民参加」について意見を交わしました。松川町へお越しいただいたのは、さかのほればコロナ以前のことになります。今後もお互いの議会や住民同士の交流が、さらに深まっていくことを願っています。

その後、牧之原市で竜巻による被害がありました。松川町とは「災害時等の相互応援協定」を締結していることから、義援金の募集と役場職員の派遣を行いました。被害にあわれたみなさまに、心よりお見舞いを申し上げます。



一般質問は町政全般にわたって疑問点を質し、所信の表明を求め、議員自らの政策提言を行い、政治姿勢を明らかにするものです。質問の持ち時間はひとり20分ですが紙面の都合上、質問者の責任において質問と答弁を要約して掲載しております。

1	みやした あきら 宮下 明	◎松川町防災訓練の結果について ◎松川町防災・減災対策について ◎今後の重点対策について
2	よねやまいく こ 米山郁子	◎女性政策サポーターと共に提出した提言書のその後の対応は
3	ししばみつ お 紫芝光雄	◎松川町民生児童委員の欠員について ◎一般競争入札について

4	よねやまよしもり 米山義盛	◎子ども・子育て支援の体系化をめざし、松川町子どもの権利条例(仮称)制定をめざそう ◎「チョイソコまつかわ」の拡充の課題は
5	やなぎはら たけし 柳原 猛	◎特別職(副町長)の役割や展望について ◎特別職(教育長)の役割や展望について
6	かが たりよう 加賀田 亮	◎少子高齢化時代の消防団について



防災対策

宮下 明 議員

YouTubeで視聴できます



問 松川町防災・減災対策について

答 防災士の育成と体制づくりを行う

問 8月の防災訓練の総括は。

答 安否確認情報伝達訓練を実施し、避難指示発令後の対応を確認できた。

問 自治会未加入世帯への安否確認方法は。

答 ①避難所派遣職員による対応、②事前に安否報告の協力依頼、③安否を知らせるカラータオルを掲出するなどを検討する。

問 住宅の耐震化の対象物件1,930件のうち過去20年で診断が21%、補強工事は5%となっている。この結果をどう評価しているか。

答 毎年10件分の予算を計上し、必要に応じて補正予算で対応している。

要望 人口1万人の高知県の黒潮町では、過去5年間、毎年100～140件の耐震工事を実施している。耐震化率を一番の目標値に耐震工事を前提とした診断、町と業者、該当者との連携など、町が積極的に関わっている。成り行き任せではなく、積極的な取り組みを。

問 高森町では約60人の防災士が養成され2年前に防災士会を立ち上げるなど、防災士の養成に積極

的に取り組んでいる。町の現状は。

答 防災士は職員を中心に4人いるが、その他は調べていない。防災士は地域の中心的存在であると考えている。町内の防災士を把握し、体制を作る必要がある。現在、資格取得経費の50%を補助している。今後は自主防災組織等の方にも取得できるよう考えている。

要望 高森町では全額補助で一般公募し毎年20人を養成している。全額補助を望む。



消防団による総合演習



行政対応

米山 郁子 議員

YouTubeで視聴できます



問 女性政策サポーター提言書その後

答 各課で内容を確認、行政運営の参考に

問 森林・竹林整備の推進は防災・環境保全の観点から整備が必要。

答 県の講習会や補助金を活用し、地域団体が整備を進めている。

問 4パーミル・イニシアチブの検討は。

答 温室効果ガス削減に向けて、産業観光課と住民税務課が協力。

問 一人一人の町民の一生涯に寄り添う取り組みは。

答 発達障害やグレーゾーンへの学習会を自主グループが開催、町が講師派遣している。

問 町民がわかりやすい相談窓口マップ作成は。

答 相談窓口マップは未作成だが、ワンストップ窓口として機能させている。

問 福祉サービスは多岐にわたるが情報提供用の福祉サービス案内冊子の作成は。

答 人生の節目でサービス一覧表を配布。福祉サービス案内冊子は作成していない。

問 安心して使えるコミュニティスペースの活用検討は進んでいるか。

答 カフェ併設などの新しい取り組みは、現在研究段階にある。

問 子育て支援センター「おひさ

ま」の工夫ある運営は。

答 利便性や通いたくなる企画を重視し、利用者の声は行事後に収集している。

問 子育て・介護と仕事の両立支援として町内企業との連携による支援強化は。

答 企業への広報は現時点では未実施、国の制度変更が企業支援の後押しとなる可能性がある。

問 病児・病後児保育の設置は進められているのか。

答 近隣市町村と契約し、ニーズに対応。町内施設設置には課題があり、関係課と連携して検討中。



松川町に住みたくなるには？



民生委員

紫芝 光雄 議員

YouTubeで視聴できます



問 民生児童委員の欠員について

答 欠員の地区は役場職員が対応

問 欠員がある地区の相談業務はしているのか。

答 役場で職員がおこなっている。

問 下伊那北部の町村で松川町の欠員がある。選考のやり方に問題があるのでは。

答 過去からこの形で実施していて地区推薦の例が確認できていない。

要望 役場職員が依頼に出向いても断られることが多く、極めてたいへんな業務になっていると思われる。地区住民のためにも選考方法を変えていくことを提案する。

問 3月の質問で一般競争入札、

4千万円の壁について質問した。物価上昇があるので検討したいとの返答だったが、半年経ち進展があれば報告を。

答 検討はしたが現在は現状のままである。

問 建築材料の物価上昇は3割。4千万円が上がらなければ町内業者が受注できる件数が少なくなってしまうが、このままで良いのか。

答 技術力維持向上、地域経済の循環などは、行政の重要課題であり、再度引き上げを検討したい。また、分離発注、受注希望型指名

競争入札を研究したい。

要望 町内業者が多く受注できれば、町の税収増にもつながり、ひいては町内に還流することで、町の活性化になると信じる。どうか早急な決断を。



値上りしている建築材料



こども計画

米山 義盛 議員

YouTubeで視聴できます



問 松川町子どもの権利条例(仮称)を制定しよう！

答 町総合計画・こども計画に盛っている

問 子育て支援を標榜する町政に、子どもの権利条約を如何に反映させているか。

答 第6次松川町総合計画はウェルビーイングを指標とし、「こども計画」もそれに沿い、こども基本法に則ったり、日本国憲法および子どもの権利条約を踏まえ、子どもの権利も掲げている。

問 「こども計画」に子ども達や保護者の思いや声が反映されているのか。

答 令和5年度に、小学生高学年から中学生・若者へのアンケート

をし、その意見を踏まえ、県のこども計画を参考にし、松川町の「こども計画」を作成した。

問 乳幼児の健診や相談から、今日の特徴的な課題と言える点は何か。

答 乳幼児健診を集団学習の場とし、全員で保健師・栄養士・歯科衛生士・言語聴覚士の話を聞き、離乳食・幼児食の試食、歯磨きを体験。おひさま職員によるあそびや絵本の読み聞かせで、月齢に合った体験を行っている。

問 学校の教職員の未配置はある

か。6月定例会で教職員より「カリキュラム・オーバーロード」改善の請願が出され、町議会は採択し国へ意見書を提出した。教職員の状況はどうか。

答 1学期に急な退職で欠員がでた北小学校の専科教員は、10月中旬に配置できる。「カリキュラム・オーバーロード」は、教育内容の整理・統合し、子ども達へ過度な競争を煽らず、先生方へ過度な負担を強いてはいない。

問 発足2年余となる「チョイソコまつかわ」の目下の課題は。

答 利用者の拡大である。



中学校での議会出前講座



行政組織

柳原 猛 議員

YouTubeで視聴できます



問 副町長、教育長に期待する役割は

答 内外の調整、教育水準の向上などだ

問 町長が黒澤副町長に期待する役割は。

答 職員や議会、外部との関係のバランスをとりながら、町政運営が円滑に進むよう助言・調整を担ってもらっている。

問 副町長自身が考える役割は。

答 一言で言えば何でも屋。働きやすい職場づくりや適材適所の人事、縦割りの壁を越える調整に日々取り組んでいる。

問 副町長としての「強み」は。

答 議会経験に基づく「住民目線」を常に持ち、行政の思考に偏

りがちな場面でバランスをとる。教員経験を生かし、人材育成・指導、職員のメンタル面への配慮も意識している。

問 町長が溝上教育長に期待する役割は。

答 教育行政の司令塔として、教育委員会と学校をつなぎ、地域の実情に合った方針を示すことや教育水準を高めるリーダーシップを期待している。

問 就任して1年余り溝上教育長の取り組みは。

答 ①学園化構想に基づくチーム

体制づくり、②学力向上と不登校対策(小学校の中間教室、中学校の学力パワーアップ月間など)、③保幼小中の15年一貫教育の体系化(幼児教育や英語教育の充実)、④教育大綱の起草と現場での実装である。

問 溝上教育長が大事にしている点は何か。

答 職員の能力だけに依存するのではなくワンチームで教育課題に対峙している。仕組みと体制に基づき、1人1人の子供の悩みや思いや願いに応えていけるようにしたい。



左 黒澤副町長(2023.5~2027.5)

右 溝上教育長(2025.10~2029.10)

※括弧内は任期



住民参加

加賀田 亮 議員

YouTubeで視聴できます



問 地域住民の防災力を高めるべきでは

答 地域自治のためにも取り組みたい

問 少子高齢化時代の消防団は様々な課題を抱えている。定員や出労といった仕組みや枠組みの視点もあるが、「地域防災のあるべき姿」から逆算して時代に合った消防団のあるべき姿を模索すべきでは。

答 中山間地など広範囲に抱える当町において消防団は必須だが、再検討は必要だと考える。

問 局所的な火災に限れば非団員である一般地域住民の初期消火スキルを育成し高めるべきでは。

答 地域住民の初期消火は重要だ。

現状、消火能力を持つ住民は2～3割程度という感触だ。

問 消防団員が各地区に出向き、一般住民に初期消火スキルを定期的に伝授・指導してはどうか。結果的に小規模のうちに消火が可能になり、消防団員の負担軽減につながる。また消防団員と地域住民のコミュニケーションが図られ住民理解が深まるのでは。

答 自らの地域は自らで守るという考え方は以前から議論しており、町中の人全員消防団になるような時代が来る可能性もあると考え

ている。

問 このような「あるべき姿」から地域防災と消防団の役割を再構築するのは、伝統的な枠組みに縛られがちな「あり方検討委員会」などでは難しいと考える。非団員の一般住民がワークショップなどで議論を深め、次世代の地域防災を検討しては。地域住民が垣根なく防災を協議することで、「地域自治」に対する考えが深まる効果も期待できるのでは。

答 町民と共にこの問題に取り組んでいきたい。



地域住民が防災の主役に

みんながわかる！

町議会

その2 定例会の流れ

年4回行われる定例会には概ね一連の流れがあります。それを知ることによっていろいろな協議の意味や、議決までの行程がわかります。



前月までに行われる

全員協議会

…行政側が重要な案件をあらかじめ説明する場です。定例会に議案として出されるものの説明、定例会がない時期に行った事業などの報告もあります。主にこの協議会で最も活発に意見が交わされます。

当月に行われる

本会議初日

…行政が議案を提出し、議員は質疑を行います。議案の内容によっては、その日のうちに賛否を決める採決を行う場合もあれば、より詳しく審議するために常任委員会に委ねる場合もあります。

常任委員会

…議員は行政の仕事分野ごとに分けた2つの委員会のいずれかに所属しています。本会議から任された議案や請願・陳情を、委員会ごとに専門的に審査し、最後に委員会内で採決を行います。

総務産業建設常任委員会

▶ 総務課、まちづくり政策課、議会事務局、産業観光課、建設水道リニア対策課

社会文教常任委員会

▶ 住民税務課、会計係、保健福祉課、教育委員会事務局

一般質問

…議員が壇上に立ち、行政に対して個人の意見や提案を述べるのが唯一の場が一般質問です。質問は事前に通告書という形で提出します。議員の一番の腕の見せどころといえます。

本会議最終日

…各常任委員会での質疑の内容や採決の結果が報告されます。報告を基に、全議員で議案や請願・陳情の採決を行います。



「アナタのボイス」～あなたの行動がまちをうごかす～

思いを持って行動を起こしている皆さんをインタビュー方式で紹介します

南信州クリエイティブコミュニティ

松元 理沙 さん(東京在住)

南信州クリエイティブコミュニティは、町の取り組みに共感し、全国から集まった人たちが自分の「好き」や「得意」を活かして関わる場です。東京や関西などから20～30代を中心に参加し、松川町での活動を広げています。

第1期から現在の3期まで参加している東京の国立天文台に勤務する松元理沙さん。仕事の傍ら何度も松川町に足を運び、イベントやお祭り、中学校の総合学習や仕事未来フェアなどに携わりながら、町とのつながりを深めています。



一松川町との出会いは

子どもたちへの科学教育イベントのような活動をしてみたいとずっと思っていました。そんな時にSAGOJOで松川町の商店街で子どもたち向けのプロジェクトテーマがあることを知って、『これはぜひ参加したい!』と思ったんです。必ずしも宇宙や星に関わらなくても、まずは地域と一緒に何ができるかを考え、自分の視野を広げたいという気持ちがありました。

一3年間携わってみて、松川町の印象は

これは私が今までずっと関わらせてもらっている理由でもあるんですが、情熱を持った方がすごく多い印象です。東京では会社員などの正規のルートで仕事をされている方が多いなか、松川町って働き方の種類が多い気がします。だからバイタリティのある大人が多いというか。何かが原因でつまずいたとしても「とりあえずやってみたらいいじゃん」と背中を押してくださる暖かさ、懐の深さを感じます。

一そこに魅力を感じているんですね

そうです。だから「一緒にやりたい!」という気持ちが生まれる。そして町の方が「やりたい」と思っていることと、私が「できる」が組み合わせることに意味があると感じています。

一他の地域でも活動をしていると思いますがこういう事業がうまくいくコツは

アイデアを横に繋げてくださる方の存在が不可欠だと思っています。何かやりたいと思ったときに、ここでできるよ、この人を紹介できるよ、とスピード感をもって繋げてくれる方がいると実現していきます。そして継続していくには行政の事業を超えた、住民の方と私たちのつながりを維持していくことがポイントかと思っています。

一受け入れる側の体制というか心持ちが大切なんですね

本当に松川町のみなさんはあったかいですよ。



夏の楽校では子どもと一緒に夏休みの宿題をお手伝い



上片桐育成会の星空観望会ではガイドを担当



福吉奈々子さん
(神奈川在住)

私は現在、「南信州クリエイティブコミュニティ」のコミュニティマネージャーを務めています。3期目となる活動を通じて、参加メンバーの成長や町の方々との温かな交流を実感しています。松川町の皆さんは常に温かく見守ってくださり、そのおかげで楽しく活動を続けられています。現在、コミュニティはPR・ちびっこ・恋活の3チームに分かれ、それぞれが松川町で「やりたいこと」に夢中です。これからも町と共に歩み、交流の輪を広げながら未来を描いていきたいと思っています。

あとがき

前号より、表紙→特集→裏表紙のインタビューをひとつのテーマにしぼっての紙面づくりをしています。そうすることで町の課題や注目点を明らかにすることを目的としています。それが住民のみなさんに伝わり、この議会だよりが少しでも町づくりのヒントになればと考えています。

広報部(編集委員会)

(部長) 星野 光洋

(副部長) 小川 隼人／柳原 猛

(部員) 坂本 勇治／加賀田 亮

宮下 明／松下 正敏